

■ 大人も興味津々！ トキ講座

9月6日金曜日、まちなかキャンパス長岡の講座「トキみ〜てに行ってみよ〜て。」が開催されました。参加したのは市内外の40歳以上の20人。



トキと自然の学習館では、これまで子どもや親子を対象にした催しを行ってききましたが、大人を対象とした講座は今回が初めてです。講座ではトキの生態を学ぶとともに、普段入ることのできないバックヤードも見学しました！

特徴・分散飼育について

まずは鳥類ではトキだけがするという『羽の色付け行動』を映像で観てもらいました。トキは季節で羽が生え変わる鳥とは違い、繁殖期に向けて自ら羽の色を灰色に変えていきます。天敵から身を守るための保護色とされていますが、参加者はトキ=白、という印象しかなかったようでとても驚いていました！



また、トキが鳥インフルエンザ等の感染症により絶滅することがないように、佐渡以外に長岡を含め全国4つの施設でも分散飼育していることを説明しました。

飼育について

続いては観覧棟『トキみ〜て』でトキとご対面！ 一般公開している5羽のトキは止まり木の上でじっとしていました。



池にはお昼ご飯のドジョウが入っていましたが、警戒心が強いトキはエサがあるからといってすぐには食べに来ないのです。

参加者からは「昔のようにドジョウを見ることが少なくなかったので、調達が大変では？」との質問があがりました。

長岡市では安定して確保ができるように、九州や四国など複数の場所から養殖ドジョウを仕入れています。参加者からは「私たちより高価なもの食べているなあ〜！」と声があがりました。



バックヤードを見学！

ここからは一般公開していないトキ分散飼育センターの見学です！が、その前に入口の扉に注目。トキを守るための対策を紹介しました。



天敵の侵入を防ぐために、分散飼育センターは電気柵に囲まれています。電圧は7000ボルト！電線に植物をあてると「バチバチッ」という音が聞こえました。



また地中からの侵入も防ぐために、柵に沿って深さ1メートルまでステンレスの板が埋められています。

天敵以外にも怖いものがあります。それは人間が持ち込む菌。中へ入る前に靴底などを消毒します。すべてはトキのため！ 厳重な態勢を整えています。



生態を学ぶ！

さあ、いよいよバックヤードへ！ 普段トキの行動や健康状態などを観察している監視カメラを使って、トキの眼について解説しました。



「みなさんの眼はどのように閉じますか？」



「人間は上から下に閉じますよね。しかし、トキなど多くの鳥は逆で、下から上へと閉じます。これは上空にいる天敵をいち早く察知するためではないかと考えられています」との説明に、皆さん食い入るようにモニターを見つめ、「ほおーっ、なるほど！」と眼の動きを確認していました。



また、美しいトキ色の羽と、その隣にある珍しい物を見てもらいました。



糞だと思ったという参加者もいましたが、これは『ペリット』といってトキが食べた草を消化できず、口から吐き出したものです。3日前に吐き出したものを見てもらいましたが、飼育員もめったに見つけることができない貴重なものです。

朝ご飯作りを体験！

トキにエサを与えるのはもちろん飼育員ですが、トキの朝ご飯『馬肉飼料』を作っているのも飼育員！ 参加者にはこのエサ作りに挑戦してもらいました。



材料（馬の肉・ニンジン・ゆで卵・栄養剤など）を混ぜ合わせてミンチにします。「味付けはしなくていいの？」とか「混ぜ具合はこれくらいで大丈夫かな？」など、調理実習のように作業をしていました。

トキの親子を間近で観察！



最後はバックヤードの中でも、最も奥にある場所へ！

長岡市では一般公開している5羽のトキのほかに、3組のつがいと2羽の幼鳥を飼育しています。子育てに影響が出ないように親子は公開していませんが、今回は特別にガラス越しにのぞいてもらいました。



大きな音をたてるとトキが驚いてしまうため、じっと息をひそめて観察。すると… 目の前の上で1羽が上がってくれました！

その美しい姿に皆さん目を輝かせ、交代の時間になっても立ち止まったまま。興奮冷めやらぬまま予定時間を過ぎるまで質問が続きました。



今回は初めての大人の講座でしたが、皆さんより一層トキに興味を持っていただけたようです。またこのような機会がありましたら多くの方に参加して頂きたいと思えます。

